

迅速な導入、的確な分析、容易な運用 QlikViewで「製造現場の見える化」を推進

“「情報システムは業務プロセス改革の延長線上にある」との考えのもとに、軽さとスピード、そして卓越したビジュアル化機能を兼ね備えたQlikViewを核に、積極的な情報活用を進めています。”

パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社
業務プロセス革新センター 所長 吉岡 和治 氏

「製造現場の見える化」推進の基盤として、QlikViewを採用

「豊かなくらし創造企業」として、「グローバル環境リーディングカンパニー」を目指すパナソニック株式会社 ホームアプライアンス社 (HA社)。同社では現在、QlikViewを核に積極的な情報活用を推進している。CIOを務める業務プロセス革新センター 所長の吉岡 和治氏は、その選定理由を次のように説明する。

「パナソニック本体においては、基幹システムとの連携に大規模なBIツールを採用し、基幹系と情報系の統合を推進しています。当社もその方針を継承しています。加えてスピーディかつ円滑に情報活用を具現化するツールの必要性を実感し、その基盤として、QlikViewを採用しました。当社では情報システムは業務プロセス改革の延長線上にあると位置付けており、QlikViewは現場の思考を容易にシステムに反映できる軽さとスピード、卓越したビジュアル化機能を兼ね備えています」

QlikView活用の先陣を切った「モノづくり月報」

QlikView活用の先陣を切ったのが、製造革新センターにおける「モノづくり月報」である。製造革新センターは、主に行政的側面から、同社の多岐にわたる製造部門(ビジネスユニット)を横断的に取りまとめる役割を担っている。その一環としてこの月報で、各製造現場の稼働率、部品ロス、人員体制、コストに対する生産性など、「製造現場の見える化」に取り組んできた。

月報では、Excelで作成された「工場月報入力表」という共通フォーマットに各ビジネスユニットの担当者が入力し、メールで製造革新センターに集約したものをPowerPoint上にビジュアル化し、メール

で工場責任者に配布していた。そのプロセスにおける課題を、実務を担当してきた製造革新センター 企画チームの涌嶋 幸夫氏は次のように語る。

「まず、各製造現場から製造革新センターに情報が送られてくる段階で、遅延が生じていました。情報を集計する時間を合わせると、約1カ月のリードタイムを要するため、経営者層が前月の指標を翌々にチェックするという状況でした。リードタイムをいかに短縮させるかということに頭を悩ませていました」



パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社
業務プロセス革新センター 所長 吉岡 和治 氏

QlikViewの開発容易性により低コスト・短期導入を実現

QlikViewを提案したのは、これまで同社においてコールセンター、全社グローバルポータル、業務システムの構築・運用などを担当してきた株式会社CSKシステムズである。

「CSKシステムズは、いずれのプロジェクトにおいても、期待以上の成果をもたらしてくれた信頼できるパートナーです。情報活用においても、QlikViewにより、業務レベルで各製造現場が能動的に取り組んでいく基盤を築いてくれました」(吉岡氏)
また、QlikViewの導入プロジェクトにおい

ソリューション

パナソニック株式会社ホームアプライアンス社

パナソニックの家庭電化・冷熱空調事業領域を担当する社内分社企業。

業種
製造

業務
IT

地域
日本13拠点・海外5拠点

利用者
経営層、工業責任者

課題

- 経営層のタイムリーな意思決定を実現する、製造現場からの迅速な情報のビジュアル化
- 製造現場からのデータソースの収集に要するリードタイムの短縮
- データの集計・ビジュアル化など、情報加工に掛かる負荷軽減
- グローバルでの情報収集・情報活用を行う上でのデータの正規化

対策

Panasonic HA社では、製造革新センターにおいて、「製造現場の見える化」を目的とする月次レポート「モノづくり月報」を作成しており、そこで生じる各拠点からの情報収集ならびに集計・ビジュアル化業務の効率化へ向けてQlikViewを導入。日本全13拠点ならびに海外5拠点で、経営者を始め70ユーザーがレポートを閲覧している。HA社では同時に、サプライチェーンでの見える化基盤としてQlikViewを活用した情報分析もスタートさせている。

効果

- 要件定義から開発まで2カ月の短期導入
- 情報収集から分析までのリードタイムを1カ月から2週間に短縮
- 集計・ビジュアル化業務を5日間からゼロに現場のカイゼン活動を推進
- さまざまな業務の情報活用基盤として定着

データソースとシステム

Excel

QlikTechパートナー



SCSK株式会社

Panasonic
ideas for life

て、システム側のプロジェクトマネージャーを務めた業務プロセス革新センター グローバルSCM推進室の安田 貴臣氏は、QlikViewの優位性を次のように説明する。

「これまで接してきたBIツールは、テーブルやキューブの作成などを、エキスパートの能力に依存しなければなりませんでした。QlikViewはExcelなどのデータを、そのままビジュアル化し、情報活用できるという点で画期的でした。ビジュアル化という観点では、きめ細かい画面を簡単に作成できるため、エンドユーザーの負荷を軽減しつつ、閲覧者側にも見やすい画面が提供できると考えました」

導入のフェーズは、①要件定義、②開発、③教育という3フェーズに大別される。要件定義では約1ヵ月かけて、主に業務プロセスと画面イメージを中心に調査と議論を展開した。限られたスペース内にグラフなどを見やすく表示する設定をしていくとともに、多言語・多通貨対応を考慮して迅速にデモを構築し、そこでの確かな評価を行うことで、1ヵ月での開発を可能にした。各ビジネスユニットのキーマン育成を目的に、OJTを実施した。受講者は分析軸を変えて、自分なりの指標を表示させる方法までを習得した。

プロセスはシンプルに リードタイムも大幅に短縮

QlikView導入後、月報作成の業務プロセスは、極めてシンプルになった。入力データは、QlikViewサーバにアップロードさ

れ、クリック1回で集計・ビジュアル化される。また、レポートも社内Webポータルを通じて配信される。

「約1ヵ月かかっていたリードタイムは、2週間程度に短縮されています。また、集計およびビジュアル化は、これまで私1人で約5日間かけて行っていましたが、そこでの負荷が限りなくゼロに近づき、本来業務である分析や改善提案に時間を費やせるようになりました」(涌嶋氏)

また、QlikViewでは、閲覧者が必要に応じて軸を変え、自由に分析を行うことができる。そのため、いわゆる「現場の改善」に活かしていくチャンスが拡がり、「モノづくり月報」本来の目的が達成されつつある。現在は、国内全13拠点・海外5拠点が当取り組みに参加しているが、2010年期より、さらに海外5拠点に活用範囲を広げていくことが計画されている。また、今後は入力の自動化にも取り組み、限りなくリアルタイムな「見える化」を実現することも目指している。

「月報を週報へ、週報を日報へというように、今後も努力を重ねていきたいと考えています。データ取り込みにおいて柔軟性の高いQlikViewは、その可能性を秘めていると期待しています」(涌嶋氏)

PSIでの活用など 新たな活用範囲も広がる

「モノづくり月報」での活用を契機に、同社では現在、サプライチェーンにおけるPSI (Production/ Procurement, Sale, Inventory) 管理など、さまざまな業務で

QlikViewの活用が進んでいる。

「業務プロセス革新センターでは現在、2つの観点から情報活用を進めています。1つは、『製造現場の見える化』へ向けてクイック・ヒット、すなわち情報の早期公開です。変化が激しく、競争が厳しい時代において、それぞれの業務における『製造現場の見える化』を、可能な限り早く具現化していこうとしています。その下地として、QlikViewは非常に有効なツールであると認識しています。もう1つの取り組みは、『製造現場の見える化』を踏まえて業務そのものを改善していくことです。これについては少し時間がかかるかもしれませんが、より多くの業務で成功例が見え始めたら、一気に加速するのではないかと期待しています」(吉岡氏)

「モノづくり月報」に代表されるQlikViewによる取り組みは、同社のグローバルIT会議においても、正式に発表される。さらに新たな活用案が生まれていけば、QlikViewは同社のグローバルなBI基盤として普及していくことだろう。



“ これまでのBIツールは、テーブルやキューブの作成など、いわゆるエキスパートの能力に依存しなければなりませんでした。QlikViewは、Excelなどのデータをそのままビジュアル化し、情報活用できるという点で画期的でした。 ”

パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社

業務プロセス革新センターグローバル SCM 推進室主任システムエンジニア 安田 貴臣 氏

“ これまでは5日間かけていたビジュアル化作業が、QlikView導入後は限りなくゼロに近づきました。そのため、本来業務である分析や改善提案に時間を費やせるようになりました。 ”

パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社

製造革新本部製造革新センター企画グループ企画チーム 涌嶋 幸夫 氏